

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 21 章 1～11 節>

①将来を見通しておられる主イエス！

イエス様は、エルサレムに入ろうとされた時に、突然、思いもかけないことを弟子たちに命じられました。「次の村にろばの子がいるから連れて来なさい」と。これを記したマタイは、余計な説明は加えず、ただ淡々と、弟子たちはその命令に従い、言われた通りろばと出会い、連れて来たことを記しています。ここで教えられていることははっきりしています。1) イエス・キリストは将来起こることを全て見通しておられるお方であるということ。2) だから、その方が命じられたことの意味が分からなくても、主を信頼して従いなさいということです。

②柔和で、平和を愛する主イエス！

イエス様はろばの子に乗ってエルサレムに入城されました。なぜか？ その答えは私たちが頭の中で考えていても出て来ません。聖書の中に記されているからです。普通、王が入城する時は戦争で用いる馬に乗って入城するのです。しかし、いつの日か真の王が戦争では用いないろばに乗って入城する時が来るのだ、とゼカリヤ書は告げているのです。そのことがここで起きているのです。「見よ、お前の王がお前の所においでになる。柔和な方で、ろばに乗り、荷を負うろばの子、子ろばに乗って」(5 節、ゼカリヤ書 9 章 9 節からの引用)。

③このお方が十字架の死に — この方にこそ、神の救いを見出せる！

群衆はこの時、讚美の声を上げながら、イエス様を迎えたとあります。妙な気もします。馬でなく、ろばに乗って入城してきたイエス様をどこまで本当に理解できていたのだろうか、と。この同じ方が最後に十字架にかけられた時には、人々は石を投げ、侮辱し、見捨てたのですから。しかし、平和を愛し、柔和なお方であったからこそ、イエス様を十字架にかけた人間(それは私たちを代表する人間たちです!)を赦して下されたことを思わなければなりません！ 主イエスが力の王でなく、平和と柔和の王であった。まさに真の王とはそのような王ではないでしょうか！ 私たちは、聖書を通してイエス様に起こったことを一つ一つ知らされて行きます。そして、その最後に分かることは、このイエス・キリストこそが従うに足る真の王だということなのではないでしょうか！